

# 定期作況報告

(第4号 平成 12年8月20日現在)  
北海道立上川農業試験場

## 1. 気象概況

7月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々2.1℃、2.4℃高かった。降水量は平年より161mm多く、平年対比356%であった。降水日数は平年より3日多かった。日照時間は平年より7.1時間少なく、平年対比82%であった。夏日（最高気温25℃以上）は10日間で、うち3日間は真夏日（最高気温30℃以上）であった。

8月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々2.9℃、4.1℃高かった。降水量は平年より15mm少なく、平年対比50%であった。降水日数は平年並であった。日照時間はほぼ平年並で、平年対比99%であった。夏日は9日間で、うち2日間は真夏日であった。

8月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々4.1℃、0.2℃高かった。降水量は平年より35mm少なく、平年対比28%であった。降水日数は平年より4日少なかった。日照時間は平年より50.7時間多く、平年対比253%であった。夏日は10日間で、うち4日間は真夏日であった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	28.2	26.1	2.1	28.5	25.6	2.9	28.8	24.7	4.1	28.5	25.5	3.0
最低気温(℃)	19.6	17.2	2.5	20.0	15.9	4.1	16.4	16.2	▲0.2	18.7	16.4	2.3
平均気温(℃)	23.4	21.2	2.2	23.7	20.4	3.3	22.1	20.0	2.1	23.1	20.5	2.6
降水量(mm)	224	63	161	16	31	▲15	14	49	▲35	253	143	110
降水日数(日)	8	5	3	3	3	0	1	5	▲4	12	13	▲1
日照時間(h)	32.4	39.5	▲7.1	44.8	45.3	▲0.5	83.9	33.2	50.7	161.1	118.0	43.1

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 2. 作 況

1) 水 稲 : やや良

事 由：止葉期は各品種・苗とも平年より3～5日早く、出穂期は各品種・苗とも平年より3～4日早かった。最終止葉葉数は各品種・苗ともほぼ平年並であった。穂揃日数は4～7日で、「きらら397」中苗が平年より3日短く、他の品種・苗はほぼ平年並であった。稈長・穂長は各品種・苗ともほぼ平年並であった。㎡当たり穂数は「ゆきまる」中苗、「きらら397」成苗が平年よりやや多く、「きらら397」中苗、「ゆきひかり」中苗が平年よりやや少なかった。出穂後20日の登熟歩合は16.4～26.8%で、各品種・苗とも平年を上回り、登熟は平年よりかなり進んでいる。

以上、品種・苗を込みにした平均値で穂数がほぼ平年並であるが、生育が進み、登熟も平年より進んでいるため、目下の作況は「やや良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	止葉期 (月・日)			出穂期 (月・日)			最終止葉葉数 (枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7.16	7.20	△4	7.26	7.29	△3	11.9	11.3	0.6
ゆきひかり 中苗	7.17	7.22	△5	7.29	8.01	△3	10.7	10.7	0.0
イシカリ 中苗	7.15	7.18	△3	7.25	7.28	△3	10.5	10.5	0.0
ゆきまる 中苗	7.15	7.18	△3	7.24	7.28	△4	11.1	11.3	▲0.2
きらら397 成苗	7.14	7.17	△3	7.24	7.27	△3	11.3	11.2	0.1

注1) 平年値は平成7～11年の5か年の平均値。

2) △・▲印は平年に比べて早・減を示す。

3) 止葉期・出穂期：全茎の40～50%に達した日

表3 生育調査

品 種 苗	稈長 (cm)			穂長 (cm)			穂数 (本/m <sup>2</sup> )			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
きらら397 中苗	67.7	68.1	▲0.4	16.4	16.0	0.4	673	695	▲22	97
ゆきひかり 中苗	73.2	73.8	▲0.6	16.8	16.8	0.0	578	619	▲41	93
イシカリ 中苗	68.6	68.8	▲0.2	16.7	16.9	▲0.2	600	604	▲4	99
ゆきまる 中苗	66.4	67.8	▲1.4	16.4	16.8	▲0.4	685	644	41	106
きらら397 成苗	67.0	67.5	▲0.5	16.4	16.1	0.3	760	717	43	106

注1) 平年値は平成7～11年の5か年の平均値。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日登熟歩合		
	本年	平年	比較
きらら397 中苗	22.0	2.3	19.7
ゆきひかり 中苗	20.0	3.5	16.5
イシカリ 中苗	26.8	4.7	22.1
ゆきまる 中苗	16.4	7.3	9.1
きらら397 成苗	19.2	2.9	16.3

注1) 平年値は平成7～11年の5か年の平均値。

2) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

2) 秋播小麦 : 不良

事由: 「ホクシン」は、穂数、リットル重、千粒重のいずれも、ほぼ平年並みであったが、「タイセツコムギ」は、穂数が平年より45本/m<sup>2</sup>多く、リットル重および千粒重が平年よりそれぞれ19g、2.2g軽かった。総重および子実重は、2品種とも平年を下回り、子実重平年比は91%~92%と低収を示した。また、「タイセツコムギ」は、7月中旬以降の断続的な降雨により、穂発芽が発生した。

したがって作況は、不良である。

表5 秋播小麦の収量

品 種 名	穂 数 (本/m <sup>2</sup> )			リットル重 (g)			千 粒 重 (g)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	577	532	45	745	764	▲ 19	37.1	39.3	▲ 2.2
	646	640	6	778	774	4	38.5	38.9	▲ 0.4

品 種 名	総 重 (kg/10a)			子 実 重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	1345	1370	▲ 25	463	507	▲ 44	91	100	▲ 9
	1497	1530	▲ 33	527	570	▲ 43	92	100	▲ 8

注1) 「タイセツコムギ」の平年値は、前6か年平均値。

「ホクシン」の平年値は、前5か年平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) とうもろこし : やや不良

事由: 抽雄期は平年より3日~4日早く、抽糸期も1日~4日早かった。草丈は両品種とも平年より低く、出葉数はほぼ平年並である。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 8月20日のとうもろこしの生育

品 種 名	抽 雄 期 (月日)			抽 糸 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	7.21	7.24	△ 3	7.28	7.29	△ 1
	7.25	7.29	△ 4	7.31	8.4	△ 4

品 種 名	草 丈 (cm)			出 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	249	276	▲ 27	17.2	17.7	▲0.5
	288	307	▲ 19	18.9	18.9	0

注1) 平年値は、前6か年の平均値。

2) 平成10年より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) △は平年より早を示す。

▲は平年より減を示す。

4) 大豆 : やや良

事由：開花期は両品種とも平年より4日早かった。生育最盛期となる7月下旬から8月下旬も高温に経過したため、主茎長、主茎節数及び分枝数は平年並からやや優った。7月下旬の降雨により倒伏が起きているものの、莢の伸長は順調で着莢数も平年を上回っている。

したがって、目下の作況はやや良である。

表7 8月20日の大豆の生育

品種名	開花期(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
トヨムスメ	7.13	7.17	△4	64	58	6	10.9	10.2	0.7
トヨコマチ	7.12	7.16	△4	65	62	3	11.0	10.9	0.1

品種名	分枝数(本/株)			着莢数(個)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
トヨムスメ	8.3	6.8	1.5	95	85	10
トヨコマチ	8.6	6.2	2.4	92	79	13

注1) 平年値は、前6か年の平均値。  
2) △は平年より早を示す。

5) 小豆 : 不良

事由：開花期は平年より6~7日早かった。7月中下旬の断続的な降雨と夜温が高く推移したことにより圃場全面に茎疫病がまん延した。現在までに「サホロショウズ」の全試験区と「エリモショウズ」の3試験区のうち2区でほとんどの個体が枯死または激しく罹病し、健全株は皆無となった。このため、「サホロショウズ」については比較的被害の軽い別試験区(回復無し)、「エリモショウズ」については罹病個体の少ない1試験区のみ調査を継続し、本年度小豆作況の8月以降の数値は参考値とする。なお、8月上中旬も全般に高温に推移したため登熟はかなり進んでおり、成熟期が平年より10日程度早まり、粒大もかなり小粒となることが予想される。

したがって、目下の作況は不良である。

表8 8月20日の小豆の生育

品種名	開花期(月日)			主茎長(cm)			本葉数(枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
サホロショウズ	7.15	7.21	△6	(55)	59	▲4	(11.9)	10.7	1.2
エリモショウズ	7.16	7.23	△7	(51)	54	▲3	(13.5)	11.0	2.5

品種名	分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較
サホロショウズ	(3.8)	6.2	▲2.4
エリモショウズ	(3.6)	6.2	▲2.6

注1) 平年値は、前6か年の平均値。  
2) △は平年より早を示す。  
▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 平年並

事由: 「農林1号」の茎長は、7月下旬の降雨と、7月下旬～8月中旬の高温により、平年比150%とかなり徒長し、全面的に倒伏した。このため、収量の低下が予想される。

「男爵いも」は、7月下旬～8月中旬の高温により、枯凋期が平年より2週間程度早まることが予想される。枯凋期間近の「男爵いも」の試し掘りでは、でん粉の蓄積が悪く、でん粉価は最終の平年値に比べ10%以上低かった。このため、上いも平均1個重は小さくなったが、株当たり上いも数が多くなり、上いも収量は20%程度多かった。

したがって、目下の作況は平年並である。

表9 8月20日のばれいしょの生育

品 種 名	茎 長 (cm)			枯 凋 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
農林1号	109	71	38	—	未枯凋	—
男爵いも	—	47	—	—	9. 6	—

注1) 平年値は、平成6年～10年の5か年の平均値。

なお、平年値は株間40cm、本年の値は株間30cmの値

7) てんさい : やや良

事由: 前期に引き続き7月下旬から8月中旬も平年より2度以上高く経過した。また、8月に入ると降水量が不足し、高温干ばつ傾向となっている。このため生育は、特に根部で抑制傾向となった。

すなわち、草丈と生葉数は前期までの良好な生育の影響もあり、今期も平年をやや上回る生育となったが、根周は2品種平均ではほぼ平年並みにとどまった。

したがって、目下の作況はやや良である。

表10 8月20日のてんさいの生育

品 種 名	草 丈 (cm)			生 葉 数 (枚/株)			根 周 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	71	59	12	32.4	27.3	5.1	31.1	29.4	1.7
ストーク	66	58	8	31.6	26.8	4.8	29.8	32.1	▲2.3

注1) 「モノホマレ」の平年値は、前6か年平均値。「ストーク」の平年値は、前3か年平均値。

2) ▲は平年より減を示す。